

景況実感調査(2019年7月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 22日稼働と対前月比2日増となり売上、数量共に10%超の前月比となった。もっとも、8月は17日の稼働日で、7月・8月通算でカウントすれば、ほぼ平年通りと予想せねばならない。高炉各社の第1四半期の決算を見ると大幅減益となり、原料価格の高騰から価格維持は必達マターと思われ、紐付きユーザーへの説明、価格改定をまず進めてもらいたい。店売りマーケットの価格形成の再生力もそこから始まる。
- ② 三品在庫はまだまだ多いが、8月のお盆休み前の仮需的な販売が出てきているように感じる。ということは、8月お盆休み明けから販売量が激減するかもしれない。
- ③ 7月は前月比売上増であったが、市況の弱含み、スクラップ安の影響で収益は減少。秋需までに在庫量を整え、市況維持に努める。
- ④ 数量、価格の維持に努めている。下期の方が荷動きが活発になると予想するが、果たしてどうか。トヨタの集購価格に注目している

中板

- ① 依然として店売りを中心に需要は低調で、これまで強気の販売姿勢であった会社が、市況に合わせた販売に転じた結果、売上回復となったという話もあり、今後の市況の崩れを予感させる。三品在庫の過剰調整には長い時間を要する見通しで、メーカーには在庫調整のための紐付き契約の精査と、価格は正面では自動車集購価格の値上げに注力して頂きたい。

厚板

- ① 産機ユーザーからの受注は足下こそ安定しているものの、計画の下方修正が見込まれている。建機ユーザーからの受注は先行き楽観できない状況にある。土木案件の受注は低調が続いているが、少しずつ案件が具体化し始めている。建築案件は引き続き引合いが弱く、価格面も厳しい。素材販売は先月好調の反動で大幅に減少した。高炉の価格引き上げ姿勢が明確化してきたことから、8月は駆け込み需要が出る可能性はあるが、客先の業況低調にて長続きは期待できない。在庫に関しては発注を見合わせ、増やさないよう努めたい。

—舟安开多金岡

- ① 4、5、6月と月を追うが如きの販売不振に歯止めは掛かったが、果たして今年の秋需シーズンに向かっての前年同月比増の目標は、今年は期待できないどころか、市況も踏まえて警戒して秋需シーズンを迎える必要あり。

工I形鋼

- ① 7月の倉出しはプラスで、稼働日増だが日当たりはマイナス。加工品の引合いは増えているが、定尺品は低調。先々の物件はあり、需要期に向け採算可能な単価に転嫁していく。
- ② 稼働日増が大きな要因。8月は稼働日減も、9月以降は数量増だが、収益的には価格の下落により苦しい状況になる見込み。

異形棒鋼

- ① 7月は稼働日が多かったが日々の販売が低調で、6月より悪かった。物件引合いも増加の兆しなしにて、売上不振は続いている。本年は需要の盛り上がり気運が無い。
- ② 店売りの7月の動きは良かった。この3カ月悪かった反動か。前年は8月後半から良くなっていった。本年も着実なところはあっている。

平鋼

- ① 6月同様、荷動きが非常に悪い。今月に入っても電話の鳴りは少なく、お盆前の駆け込みもない。市況は何とか維持しているが、一部では厳しい指値も聞こえる。荷動きが悪いため在庫の適正化には時間がかかっている。
- ② 6月が最も悪かったので前月比ではよく見えるが、中身は変わらず数量、利益とも厳しい状況だった。建築・土木とも少し回復しそうな兆しはあるものの、昨年のような忙しさは期待薄く、無理せず堅実な商売をしていくことが大切。

車径量形鋼

- ① 店売りは相変わらず低調な商いが続いているが、メーカーはまだ値上げの姿勢なので苦しい状況が続くと思われる。
- ② 7月中旬からまとまった物件の動きが見え始めた。例年、季節要因となる学校改修の案件は動きが鈍いが、その分大型再開発案件が旺盛。
- ③ 稼働状況はやや好転。下期に向けて期待を持てる状況となってきた。

鋼管

- ① 4～6月の低調な荷動きそのままに7月も終わる。全体的に引合いは弱く、店売りは7月～9月も期待できない。
- ② 出荷量は4～6月の低調さが続いているが、市況は弱いながらも前月の水準をキープしている。
- ③ メーカー値上げの転嫁ができない。
- ④ 7月は荷動きが回復し、今年の中では2番目の出荷量だった。それでも前年同月比は6カ月連続ダウンとなった。対して前々年比は10%どころか30%以上の増加である。2019年が半分経過したが、昨年より悪く一昨年よりは良いという状態が続いている。秋需直前で直近判断の悲観論に押された市況形成は何とももったいない。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連ではトヨタが堅調だが、他メーカーは生産調整に入っている。建機も国内中心にミニ、小型は好調だが、中大型は低調。工作機械、産業機械は国内外の設備投資の減退により伸び悩む。店売りは引き続き低位安定で振るわない状況。市中在庫は多め感から、メーカーへの申し込みを抑制している。価格は横這い基調。

磨棒鋼

- ① 今年に入ってから5月に次いで二番目に出荷の少ない月になってしまった。5月は単純に稼働日が少なかったことによるものだが、7月は20日間の稼働日であったことから、出荷そのものが落ち込んでしまっている。製品在庫は高止まりしており、収益に影響をきたしかねない。自動車、建機向けの紐付き品についても調整局面が続く様子。

その他

<鉄スクラップ>

- ① スクラップの発生量は6月から引き続き低調だった。8月は夏期休業中の手当て用に一時的に集荷を強めているメーカーも一部あるが、市況が上向くほどの材料にはならないと思われ、様子見が続きそうだ。

<金属表面処理加工>

- ① 7月は前月に比べ稼働3日増であったが、扱い数量は変わらなかった。物件物は計画通り。紐付き材が工程遅れのため次月へ。スポットは低調であったが、中旬以降の引合いが活発なため期待したい。8月以降、物件物が確定していることから安定操業で推移すると予想している。